

第3次文化振興計画 5年間（H27年度～31年度）の振り返り

I ふれる、たのしむ～暮らしの中に文化芸術を感じることでできる環境をつくる～

あらゆる年代の市民や来街者が自分自身の体験として、また鑑賞者として、暮らしの中で自然に文化芸術に触れ楽しむことができる環境づくりを進めます。

1. 文化芸術の活動やイベントの充実

①市民の文化芸術活動支援

【主な事業】

■市民文化祭

- ・立川市民文化祭として、9月から3月にかけて、文化団体や地域文化会が各々公演や作品展示を行うとともに、文化協会全体で「市民文化フェスティバル」（展示・公演・吹奏楽ともだちコンサート）を実施しました。

■地域学習館まつり

- ・5月から3月にかけて、社会教育関係団体等の発表・交流の場として、6館の地域学習館で「地域学習館まつり」を開催しました。

■アール・ブリュット

- ・平成28年度よりアール・ブリュット立川実行委員会が、伊勢丹立川店をはじめ、多摩モノレール5駅、立川市子ども未来センター、なみき画廊、立川タクロス mini ギャラリー、立川市役所窓口サービスセンター等、市内各所でアール・ブリュット展を開催しました。

【評価】

- ・市民の文化芸術活動支援については、アール・ブリュット立川実行委員会による作品展が、市内各地で開催され、年々その規模も大きくなり、市民による文化芸術のイベントとして定着してきており、文化芸術のまちづくり事業補助金等による支援も行いました。また、平成31年度で62回目となる長い歴史をもつ文化協会による市民文化祭や地

域学習館まつり等についても例年盛り上がりを見せておりますが、来場者数や文化協会加盟団体数については、増えておらず、各団体の高齢化による担い手不足などの課題もあります。

②文化芸術イベントの開催

【主な事業】

■立川いったい音楽まつり

- ・立川いったい音楽まつりには、5年間で1,450団体（H28～R01は毎300団体、H27は250団体）の参加があり、282,000人（R01：60,000人、H30：62,000人、H29：58,000人、H28：54,000人、H27：48,000人）の来場がありました。
- ・たちかわ交流大使の山下洋輔氏によるライブ（H27後夜祭、H28～30前夜祭）や、アメリカ空軍太平洋音楽隊パシフィックショーケースによるライブ（R01前夜祭）も行われ、音楽イベントとして盛り上がりを見せました。

■立川市民オペラ

- ・毎年3月に立川市民オペラの上演を行いました（令和2年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止）。オーディションで選ばれたソリストとともに、オペラ合唱団や助演として市民が出演するほか、スタッフとしても多くの市民が関わりました。

■立川市地域文化振興財団の鑑賞事業・普及事業

- ・財団が、たましん RISURU ホールで、クラシックや歌舞伎、演劇などの公演を多数実施するとともに、学習等供用施設や福祉施設など、市内各所で落語や音楽などの公演を行いました。

■立川シアタープロジェクト

- ・市は、平成28年度に財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン（たちかわ創造舎）による実行委員会形式による、「立川シアタープロジェクト」を立ち上げ、地域の劇場文化の活性化及び立川からの発信を行いました。
- ・子どもと大人が一緒に楽しむ舞台として年1回演劇を創作し、毎年クリスマスの時期にたましん RISURU ホール・大ホールで上演しました。4回で合計5,493人の来場者がありました。また、子ども未来センターで関連講座やワークショップを開催し、物語の世界を深める取組も行いました。

【評価】

- ・文化芸術イベントの開催については、立川いったい音楽まつりでは、毎年会場数や出演団体数の拡大を続けてきましたが、第8回(令和元年度)は開催場所や内容を見直し、実行委員も楽しみながら運営できる方法に工夫をし開催しました。また、立川市民オペラは毎年多くの市民から期待される公演として定着しています。シアタープロジェクトについては、親子で気軽に良質な演劇を鑑賞し、一体となって楽しめる機会を多く提供することができました。

2. 文化芸術の活動や発表の場の提供

①市内公共施設や公共スペースの活用【重点取組項目】

■たましん RISURU ホール

- ・平成26年のリニューアルオープンを経て、本市のみならず、周辺の地域から年間42万人を超える来場者に利用され、財団の事業を中心に文化協会、市民、学校、団体及び企業など多様な主体による各種催しや展示会、講演会など、文化芸術の拠点として活用されました。

■アイムホール

- ・財団が、女性総合センター・アイムのホールを活用して、落語やクラシックなどの文化事業を行いました。

■旧多摩川小学校

- ・たちかわ創造舎が、「インキュベーション・センター事業」「フィルムコミッション事業」「サイクル・ステーション事業」とともに、演劇やアート展示など多様な文化創造活動を展開しました。
- ・放課後シアターとして、月1～2回平日夕方に、大人も子どもも楽しめる「よみしばい」の上演（30分程度）を行ったほか、他の施設への出張公演も行いました。

■子ども未来センター

- ・子ども未来センターでは、指定管理者と石田倉庫のアーティストが連携して、「子ども未来センター美術部 美術部長はアーティスト」を2回実施しました。
- ・指定管理者による文化芸術活動支援事業として、「カッティングシートで子ども未来センターをかざっちゃおう!」、「ヴァイオリン・グループレッスン講座」、「ドラムサークル」などの事業を行いました。

また、平成28年度にはたちかわ創造舎のシェア・オフィス・メンバーの劇団「風煉ダ

ンス」が、芝生ひろばを舞台にして本格的な野外演劇「スカラベ」を上演しました。

【評価】

- ・たちかわ創造舎や子ども未来センターなど従来の施設からリニューアルされた場所を活用し、新たな文化芸術の拠点として、指定管理者や創造舎が主体となり、様々な文化芸術活動を行うことができました。

今後も上記施設を文化芸術の拠点として活用していくとともに、市民の文化芸術活動の場として、他の公共施設の文化的活用の推進を図ることが求められています。

②民間施設の文化芸術活動への活用推進

■立川タクロス mini ギャラリー

- ・平成 28 年 8 月に完成した立川駅北口の大規模複合施設「立川タクロス」の一階外壁に無料で使用できるギャラリー、「立川タクロス mini ギャラリー」が同管理組合の協力により設置され、アール・ブリュット立川などによる作品の展示が行われています。

■サンクタス立川ギャラリー

- ・緑町にあるマンション「サンクタス立川」の西側壁スペースを、管理組合の協力を得て、ギャラリーとして無料貸し出ししました。平成 31 年度は改修のため使用できませんでしたが、4 年間で 11 件の申請がありました。（絵画・彫刻等、写真など）

【評価】

- ・民間施設である立川タクロス mini ギャラリーやサンクタス立川ギャラリーは市民の文化芸術の発表の場として文化的活用をすることができました。今後も引き続き民間事業者に新設・既存施設へのアート作品の設置や文化的活用の推進を行い、文化芸術に自然に触れられる環境づくりを目指していきます。

成果指標	基準値 平成25年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	平成31年度末	目標値 平成31年度末	達成
日ごろから文化芸術に触れる機会があると思う市民の割合	38.4%	36.2%	38.6%	49.2%	46.1%	44.4%	40.0%	○
財団が展開する文化芸術事業への来場者数	47,500人※	57,758人	60,239人	60,725人	73,640人	74,796人	55,000人	○
たましんRISURUホール来場者数	388,885人 ※	406,785人	421,915人	434,249人	457,953人	428,542人	420,000人	○
市民文化祭、地域学習館まつり来場者数	30,807人	27,104人	23,687人	24,961人	29,031人	30,272人	35,000人	

※たましん RISURU ホールは、平成 25 年度に休館期間があったため平成 26 年度の値を使用

Ⅱ はぐくむ、ささえる～子どもや若者の感性を育む、アーティストを支援する～

子どもや若者が文化芸術に触れる場や機会をさらに充実させるとともに、アーティストやボランティアなど文化芸術活動の担い手の育成・支援に取り組みます。

1. 子どもたちや若者が文化にふれる機会を創出する取組

①子ども対象文化芸術事業の積極的な開催【重点取組項目】

■小学生ファーレアート鑑賞事業

- ・財団が、ファーレ立川アート鑑賞事業を実施。市民ボランティア団体のファーレ倶楽部を講師に市内全小学校の5年生にアート作品を案内しました。

■小・中学校訪問事業等

- ・財団が、小学校訪問事業として、音楽（全校）、落語（14校）、アート（3校）、ダンス（2校）のプログラムを提供するとともに、小学生・中学生吹奏楽クリニックや小学校演劇体験事業を実施しました。

■キッズ・ワークショップ等

- ・財団が、音楽や工作などの子ども向けワークショップを実施しました。また、キッズ伝統芸能体験として子どもたちに伝統文化に触れてもらう機会を提供しました。

■こどものためのお箏教室

- ・平成 29 年 1 月より、財団と（公社）日本三曲協会の主催で毎月 3 回稽古を行い、平成 30 年から令和 2 年の毎年 1 月には発表会を行いました。

【評価】

- ・子どもたちや若者が文化にふれる機会を創出する取組については、主に小学生を対象とする事業を通して、確実に事業数は増え、規模も大きくなっています。特に、小学生フアーレアート鑑賞事業と小学校訪問事業の音楽では全 5 年生を対象とし、子どもたちの感性を育むことを意識した内容を充実させ実施しています。

②学生・若者等の文化芸術活動への参加促進

■国立音楽大学大学生によるアイムホールコンサート

- ・市と連携協定を締結している国立音楽大学の学生やOBによる演奏会について、女性総合センター・アイムのホールを無償で貸し出す制度を開始し、多数の団体が演奏を披露しました。

■文化芸術のまちづくり協議会自主事業

- ・子ども未来センターとたましん RISURU ホールを使用し、文化芸術のまちづくり協議会の「ワークショップ&ワークショップ edu」を行いました。近隣の大学や専門学校、民間企業や中学校も参加し、子どもたちにワークショップのプログラムを提供しました。

【評価】

- ・国立音楽大学大学生によるアイムホールコンサートでは、学生自らが企画し、事業の実施までを達成するような取組として、コンサートの企画、内容、構成、当日の運営までを学生自らがを行い、財団が運営支援することにより、学生による文化芸術活動への参加を促進する環境づくりに取り組みました。
- ・文化芸術のまちづくり協議会の自主事業「ワークショップ&ワークショップ edu」では 10 を超える近隣の大学などに呼び掛け、大学生がプログラムを提供し、子どもたちが、アート、音楽、ダンスなど、楽しんで参加できる機会を提供するとともに、大学生にとっても貴重な体験の場にもなりました。

2. 文化芸術の担い手の支援

①文化芸術に関わるボランティアの育成

■文化芸術のまちづくり協議会実施講座

- ・文化芸術のまちづくり協議会が「アート・サポーター養成講座」を実施し、「レセプションシヨニスト育成講座」や「市民ライター養成講座」を行いました。また、平成 31 年度には講座内容をニーズに合ったものにするため、文化芸術団体を対象にアンケートを行いました。

【評価】

- ・講座を受けた方には市民ボランティアとして登録してもらい、財団の主催・共催事業にレセプションシヨニストとして協力していただいたり、文化芸術のまちづくり協議会のホームページ「TACHIKAWA BILLBOARD」にてライターとしてご協力いただくなど、文化芸術ボランティアの育成に貢献しました。ここ数年ボランティア登録者数が落ち着いてきているので、講座内容の見直しなど、更なるボランティア登録者増加のために検討が必要です。

②アーティスト活動の支援

■たちかわ創造舎のインキュベーション・センター事業

- ・たちかわ創造舎のシェア・オフィスには、3 団体・1 個人が入居し、校舎を利用しての探検型演劇や子ども未来センターでの野外劇、中高生対象の演劇ワークショップ、チョークアートのワークショップの開催など、地域の中での活動を進めてきました。

■多摩フレッシュ音楽コンサート

- ・東京多摩公立文化施設協議会主催の「多摩フレッシュ音楽コンサート」を財団が毎年実施し、声楽部門とピアノ部門の受賞者のために、リサイタルの機会を提供しました。

■文化芸術のまちづくり事業補助金

- ・平成 27 年度～平成 31 年度で、延べ 31 団体が文化芸術のまちづくり事業補助金・奨励金の交付対象となりました。

■アート・マーケット

- ・財団が、立川市内・多摩地域を活動拠点としているアーティストの作品を紹介することを目的に、作品の展示・販売をたましん RISURU ホール・ロビーで開催しました。

■市役所ロビーコンサート・水曜コンサート

- ・財団が実施する、市役所ロビーコンサートやたましん RISURU ホールの水曜コンサートに、国立音楽大学の学生や若手アーティストに出演していただきました。

【評価】

- ・様々な形でアーティストやアーティストを目指す若者が作品や成果を発表する場・機会を提供することができました。今後も引き続き表現の場・機会の提供や、市民の文化芸術活動が継続して行われるような支援が求められています。

成果指標	基準値 平成25年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	平成31年度末	目標値 平成31年度末	達成
財団が展開する子ども対象事業参加者数	2,391人※	4,265人	4,938人	5,826人	6,578人	6,375人	3,000人	○
文化芸術活動ボランティア登録者数	101人	119人	132人	135人	139人	144人	120人	○
ロビーコンサート・水曜コンサートの学生団体出演数(累積)	27回	43回	54回	60回	76回	80回	90回	
文化芸術のまちづくり補助金補助対象新規事業数(累積)	16事業	20事業	22事業	24事業	27事業	30事業	30事業	○

※たましん RISURU ホールは、平成 25 年度に休館期間があったため平成 26 年度の値を使用

Ⅲ つたえる、つなげる～文化芸術の息吹を伝え、その波と輪を広げていく～

文化芸術活動の継続的発展やまちの魅力向上を目指し、文化芸術に関する情報の積極的な発信、文化財保護や伝統文化継承支援、団体間のネットワーク化に取り組みます。

1. 文化芸術を伝える取組

①文化芸術を生かしたシティプロモーションの展開【重点取組項目】

■ ファーレ立川アート保全・活用事業

- ・街区のビル所有者や市民団体のファーレ倶楽部、市などで構成するファーレ立川アート管理委員会が、作品の保全のほか、写真コンテストや街区の勤務者向けアートツアーなどを実施しました。またロゴマークの作成や街区を美術館に見立てた複合イベント「ファーレ立川 アートミュージアム・デー」を年2回（平成31年度は台風・新型コロナウイルス感染症の影響で中止）開催しました。
- ・その他、作成した作品案内アプリ「ファーレ立川アートナビ」や多言語のパンフレット、関連グッズなどを活用した周知や留学生を対象にしたモニターツアーなどに取り組みしました。

■ 立川まんがばーく

- ・立川まんがばーくでは、アシスタント背景美塾の協力でまんがの描き方教室やまんがに関連するワークショップや「まんがばーく大市」等を開催しました。また、市民団体による「まんがまつり（まんがにまつわるワークショップ）」も開催しました。

■ 立川駅西地下道壁面アート化事業

- ・平成29・30年度の2年間の事業として、武蔵野美術大学と連携し、アール・ブリュット作品を取り入れて、立川駅西地下道のアート化に取り組みました。ライブペイントやワークショップ、関連イベントなどに、年代や障害の有無を超えて様々な方が参加しました。

【評価】

- ・ファーレ立川アートやまんがばーくなどで多様なイベントやワークショップ等により、立川ならではの文化芸術の魅力を活かした情報発信を行うことができました。また、西地下道の壁面アート化事業を通じ、様々な団体のネットワークを繋ぐとともに、地下道を明るく楽しく通行できるような場所にすることができました。

世界的にも誇れるファーレ立川アートや漫画・アニメをはじめとするサブカルチャー等を活用し、今後も国内外に向け、シティープロモーションにつながるような戦略的な情報発信や文化、観光、産業など、分野にとらわれない本市の魅力を発信することが求められています。

②文化財・伝統文化の継承、市史の編さん

■歴史民俗資料館・古民家園

- ・歴史民俗資料館・古民家園で、体験学習会等を約 90 回、企画展等を約 70 回、講演会等を 8 回開催しました。また、地域の高等教育機関や市民団体との連携事業を 50 回程度開催しました。

■立川よいと祭り

- ・令和元年で 31 回目を迎えた立川よいと祭りについては、実行委員会に助成するとともに、協働事務局を財団が担いました。サンサンロードで開催され、参加団体数は平成 27 年度 52 団体、約 7 万人の来場者数から H31 年度は、68 団体、来場者数は約 10 万人と年々、盛況に開催されており本市の夏の風物詩となっています。

■伝統文化親子教室事業支援

- ・お囃子や獅子舞などの市民団体に対し、東京都の伝統文化親子教室事業補助金の申請を支援しました。

■市史編さん事業

- ・先史、古代・中世、近世、近代、現代、民俗・地誌の 6 部会が、巡見や資料の収集・調査、聞き取り調査を行い、現在までの成果として、資料編「地図・絵図」「古代・中世」「現代 1」「柴崎の民俗」、調査報告書「鈴木家文書目録」「向郷遺跡」「砂川青年年代資料集」を刊行しました。引き続き、資料選定や撮影作業を進めています。
- ・近世部会で毎月 1 回、市民団体と古文書輪読会を開催し、資料の解説を行うなど編さん事業への市民参加にも取り組みました。
- ・事業周知のために、市史編さん広報紙「たちかわ物語」を年 2 回（9 月・3 月）発行しました（最新・第 10 号）。また、関連講演会を 5 回開催し、のべ 355 人の参加者がありました。

【評価】

- ・市史編さん事業については、平成 27 年度から令和 6 年度までの計画期間の中盤を迎え、貴重な歴史資料の収集、調査、研究を進め、平成 31 年度までに成果として、資料編 4 冊、調査報告書 3 冊を刊行し、市民への周知のため、講演会や広報誌を刊行し事業の周知啓発に努めました。

文化財については、文化財の適正保存に取り組むとともに、歴史民俗資料館等でこれらに触れる機会を設けるなど、伝統文化に触れる機会の充実を図ることができました。

今後は引き続き立川市史本編の刊行に向け取り組むとともに、収集した資料等の効果的な活用方法の検討も求められています。

2. 文化芸術のネットワークを広げる取組

①多様な主体との連携や交流の促進

■文化芸術のまちづくり協議会自主事業

- ・毎年11月に子ども未来センターとたましん RISURU ホールで行った、文化芸術のまちづくり協議会の「ワークショップ&ワークショップ edu」では、プログラムを提供した周辺大学や地域の企業を対象に情報交換の場を設けました。

■たちかわ創造舎

- ・たちかわ創造舎では、多摩エリアを中心に文化を担う個人や団体、地域の方々と事業の実施等を通じた連携・交流が行われました。

【評価】

- ・まちづくり協議会の自主事業やたちかわ創造舎を拠点とし、多様な主体が連携・交流を図れる場を提供することができました。

平成31年度で設立10周年を迎えたまちづくり協議会については、WS×WS等の自主事業の振り返りを行い、次の10年に向け、更に多くの文化芸術団体や市内の企業・関係団体間のネットワークづくりを進め、市民の文化芸術活動を支援する仕組みづくりに向けた新たな取組を検討していく必要があります。

②文化芸術に関わる情報のプラットフォームづくり

■文化芸術のまちづくり協議会ホームページ

- ・文化芸術のまちづくり協議会が平成26年度に立ち上げたホームページ「TACHIKAWA BILLBOARD」で、アーティストやイベント、地元企業の歴史などの紹介を行いました。

【評価】

- ・ホームページのアクセス数も年々増加し、積極的な文化芸術情報の発信に取り組むことができました。より一層アクセス数を増やし情報発信をしていくためには、ホーム

ページの認知度向上や、内容の充実、F Bやツイッター等様々な媒体を有効に活用していくことが必要となります。

成果指標	基準値 平成25年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	平成31年度末	目標値 平成31年度末	達成
まちづくり協議会ホームページアクセス数	3,411	3,220	7,229	7,369	7,071	9,777	8,000	○
歴史民俗資料館収集資料点数	13,119点	14,173点	15,185点	15,709点	16,589点	17,060点	13,700点	○
ファーレ立川アートツアー参加者数※※	1,811人	2,051人	2,067人	2,509人	2,311人	2,178	2,000人	○
まちづくり協議会加入団体数	39団体	39団体	39団体	39団体	39団体	37団体	45団体	